



だより

〒444-0802岡崎市美合町字並松1-2

Tel : 0564-51-1601 Fax : 0564-51-4831

E-mail noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ : <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



作物専攻

SNS

CONTENTS

- 1 特集 あなたの就農を応援します(農起業支援ステーション)
- 2 先輩からみなさんへ 農大OB紹介
- 3 専攻紹介 作物専攻
- 4 専攻トピックス
- 5 研修紹介 農業技術研修
- 6 トピックス
夏休み明け 始業式
「派遣実習」開始！！
愛知農業次世代リーダー塾始まる
農産物利活用研修を開催
「あいちの就農情報」ができました
- 7 お知らせ
オープンキャンパス2021開催

愛知県立農業大学校
公式HP



Instagram



Twitter





特集

あなたの就農を応援します
愛知県農起業支援ステーション

今年4月から農業大学校内に県内全域の就農相談窓口として「愛知県農起業支援ステーション」が設置されました。農業大学校では、農業後継者、新たに就農を希望する学生・研修生の育成をしてきましたが、さらに、就農者確保に向けた相談機能が加わったことで、愛知県の農業者の担い手の確保と育成を総合的に支援していくことになりました。

今回は、本年度から始まった愛知県農起業支援ステーション（以下、ステーション）の活動紹介とともに、県内の就農支援事例を紹介します。

愛知県農起業支援

ステーションの活動

ステーションは就農に向けた

一次相談窓口

ステーションでは、まず、就農に関する基本的な流れや支援制度、就農希望地や品目などの相談を受ける「一次相談」を行います。その中で、就農希望地などが固まってきた段階で、8か所の農林水産事務所農業改良普及課内にある各地域の就農相談窓口「農起業支援センター」と調整を行い、農起業支援センターが「二次相談」を行っていく

ます。

なお、ステーションでは、相談者がスマホやパソコンを使って自宅から相談できる「リモート相談」にも対応し好評です。



リモートによる就農説明会

新たに始まった

「就農説明会」は好評！

就農に関する情報や相談を希望する人にとって、農業の基本的な知識や情報など知りたい情報は多くあります。しかし、ほとんど知らないままで相談に見える方もいます。

このため、ステーションでは5月から、「就農説明会」を開催しています。1回目は農大で行いましたが、その後、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リモート形式で相談会を実施しています。9月までに5回開催しましたが、1回当たり

15名くらいの方が参加しています。説明会では、就農までの流れや各種支援制度などを説明しています。“就農支援事業の対象や条件は？”“就農するまでにどれくらい資金が必要か？”“などの質問が多いです。約1時間の説明会ですが、“リモート形式で参加しやすい”と好評です。

説明会后、参加者からは、「前向きに就農を考える機会になった。」という意見が多くありました。説明会后に希望者には就農相談を行っています。就農に向けた計画などがわかりやすくなっています。今後も、ステーションでは「就農説明会」を月2回開催していく予定にしています。



就農説明会

ステーションへの就農相談状況

（9月末現在）

4月から始まった就農相談は、月平均20人くらいの相談があります。20、30歳の若い方が約4割と最も多く、実家に農地があるUターンや新たに農地を賃借などして農業を始めた方もいます。農業を希望する理由は、“努力が報われる仕事だ”と思う、“食”を担う仕事をしたい、“自分の夢がかなう、自由にできる”などです。最近では、“新型コロナ感染症で先が見えないから”という考えの方も相談にみえます。相談時間は平均で1時間くらいですが、2時間以上の相談もあり、相談される多くの方が熱心です。

ギャップが課題

就農にあたって一番の課題は“農地”ですが、農地を所有していない方は約7割みえるため、その課題を解決することが重要となっています。そのためには、できるだけ農地の斡旋等可能な地域でJAの部会等の研修を受け、信頼を得る必要があることなどの様々な情報を提供しています。しかし、本人の希望とのギャップが大きく、各地の農起業支援センターへの二次相談へ至るケースは1割程度となっています。

ステーションは就農情報の発信基地



ステーションの大きな役割に就農情報の発信があります。ステーションでは、現在までに県内各地の就農情報を集約しています。これらの情報は、農大ホームページ内にあるステーションのページに掲載されている他、9月から農大の中央教育棟2階に「あいちの就農情報」のコーナーを設けて、農大に來れる方が気軽に就農に関する情報を見ることができるようになりました。今後も情報発信を充実していく予定です。



県内の就農支援事例
JA西三河いちごスクール

ステーションでは、県内各地域の就農情報の収集や就農に向けた連携を図るため、就農支援事例を調査しています。県内各地域でJAや市町村等が就農希望者の研修を受け入れている主な機関は表のとおりです。

◇ JA や市町村等が就農希望者の研修を受け入れている主な機関 ◇

○はつらつ農業塾（一宮市、稲沢市）、○瀬戸農業塾（瀬戸市）、○かすがい農業塾（春日井市）、○農業塾（出荷者育成コース）（江南市）、○農業塾（大府市）、○JAあいち知多キャベツ部会（大府市、常滑市、南知多町）、○JAあいち知多東海茄子研究会（東海市）、○農事組合法人オーガニックファーム知多（南知多町）、○知多の恵みグループ（美浜町）、○JAあいち三河「いちご」新規就農サポートセンター（岡崎市、幸田町）、○JAあいち三河農業塾（岡崎市）、○刈谷生きがい楽農センター（刈谷市）、○JAあいち中央いちじくスクール（安城市）、○JA西三河いちごスクール（西尾市）、○JA西三河いちじくスクール（西尾市）、○豊田市農ライフ創生センター（豊田市）、○援農ネットみよし事業（みよし市）、○JAあいち豊田みよし施設園芸支援センター（みよし市）、○公益財団法人農林業公社しんしろ（新城市）、○JA愛知東トマト部会設楽支部（設楽町）、○公益財団法人功農支援会（豊橋市）、○とよかわ就農塾（豊川市）、○オーガニックファーマーズ名古屋（江南市、長久手市、春日井市、西尾市、田原市）

この中でJA西三河いちご部会の取組「JA西三河いちごスクール」を紹介しま

す。
JA西三河の営農部指導販売課の日比敏之係長さん、営農部あぐりセンター小牧の中村有佑さんと、西三河農林水産事務所農業改良普及課（西三河農起業支援センター）担当の加藤夕子専門員にスクールの案内をいただきながら話を聞きました。

Q スクールを始めたきっかけを教えてください

どの産地も同じ状況だと思いますが、いちご部会では部会員の高齢化が進み、将来の産地力が低下する危機感をもっていました。そこで、JA担当から部会役員に働きかけて、平成30年度に、部会長経験者等6名で構成する「いちご産地振興委員会」を設立しました。その中で「産地の担い手づくり」が検討され、令和元年度に「JA西三河いちごスクール」を開始しました。

Q いちごスクールの仕組みを教えてください

研修期間は、毎年6月から翌年5月までの1年間、研修受け入れ農家での実習、イチゴ栽培に関する座学、農大のニューファーマーズ研修を受講して基礎的な技術と知識を学びます。

Q スクールの応募状況や修了生とその後の就農状況はどうでしょうか

スクールの問い合わせは年間40件程度ですが、農業の厳しさを説明すると多くの人が受講を断念します。面接まで進む人は合格しています。

最初のスクール修了生（令和2年度）は4名、令和3年度は3名ですが、全員が就農しています。そのうち、新設ハウスで開始した方は2名、中古ハウスで開始した方は5名です。

Q 研修生を受け入れる際に注意している点はありませんか

受け入れたい研修生は、自分で調べ、勉強し、主体的に準備でき、自己資金や生活費の確保ができる人です。困難にも「こたれずガッツのある人です。自分から動かず、受け身の人は受け入れが難しいと思います。

Q 就農にあたっての課題はありますか

やはり空きハウスの確保が課題です。今は部会の協力で、農地や空きハウスの情報を積極的に集めてきてくれるので助かっています。

Q 今後のスクールをどのようにしていきたいですか

1年に3名程度の研修生を受入れ、10年で30人を就農させたいと思っています。



研修受入農家、研修生の声

受入農家 深谷 均さん

研修生は質問が多くて、作業も早いので、意欲の高さを感じます。自分から気づいて動いてくれ、作業が早く進み助かっています。新規部会員が入ることで部会に活気が出ることを期待しています。スクールを通じてうまく世代交代していきたいと思っています。

研修生 鈴木妙子さん

親戚がこの地域でイチゴ農家だったのでいちご栽培に関心を持ちました。最初は、家族もイチゴ栽培に反対していました。説得するのに苦労しましたが、JAから全力でサポートすると言わ

れスクールに入校することができました。スクールでは、手取り足取り教えてもらい勉強になります。スクールではすべての作業を経験すること、積極的に動くことを意識しています。今後は、農地を親戚の紹介で借り、ハウスを建設する予定です。

Q 最後に農起業支援ステーションへの要望があればお願いします

JA西三河 日比係長さん、中村さん

相談者自らが、農業の現状や栽培品目について自分で調べるような積極性をもつようお願いします。まずは、県内外を問わずいろいろな研修先を自分の目で見た上で、当スクールを選ぶかが大切だと思います。

普及課 加藤夕子専門員

最終的に就農につながる人とつながらない人は「やる気の差」が大きいと思うので、自分で調べて自ら動く人を二次相談へとつないでくれることをお願いします。

先輩からみなさんへ

農大OB紹介

鷲岡 輝さん（22歳）

令和元年度 卒業（酪農専攻）
豊橋市 酪農（現在、田原市で研修中）



Q 現在、どんなことをされていますか

母と祖母が豊橋市内で酪農を営んでいるので、その後を継ぐため、現在、田原市の山田牧場と豊橋市内の牧場で働きながら研修をしています。

Q 研修はどのようなことをされていますか

研修をしている2軒はそれぞれ異なる飼養方式です。山田牧場は、自分の家と同じ飼養方法（対尻式のつなぎ牛舎）ですが、豊橋市内の牧場はフリーストール牛舎です。家に入る前にそれぞれの飼養方法のメリット、デメリットなど実地で勉強して就農時に役立てたいと思っています。1週間のうち、5日は山田牧場、1日は豊橋市の牧場、



1日は家を手伝っています。お休みはありませんが、とにかく今は勉強なので、がんばっています。

Q 就農後はどんな経営を目指していますか

家は、搾乳牛25頭の規模ですが、まずは、搾乳牛40頭をめざしています。農大に在籍していた時から少しずつその準備を進めています。

将来的には、休みがとれる酪農経営を目指していきたいです。そのためには規模拡大をして、雇用や機械などを導入して効率的な経営をしていきたいと思っています。

Q 農大に入るきっかけを教えてください

小学生のときにおこづかい稼ぎで家の酪農を手伝っていた時、牛が好きになって農業をやってみたくなりました。それで、中学生の時から、農業高校、そして県農大に入ることを決めていました。

Q 農大の思い出を教えてください

やはり、寮生活が一番の思い出です。寮生活では先生方にいろいろご迷惑をおかけしたかもしれませんが...、そのような生活を通じてたくさんの友達ができました。また、クラブ活動は野球部でしたが、他のクラブにも顔をだして、いろいろな専攻の学生と話ができ楽しかったです。勉強を兼ねて近くの牧場やショッピングセンターでバイトをしていました。毎日、バイトやクラブで忙しかったけれど、ほんとうに充実した毎日でした。東近スポーツ大会の野球で2年間とも優勝したことも思い出です。

2年生の時は専攻長でしたが、みんなをまとめるのに苦労しました。でも、その経験を通じて、人を見る観察力や指示する力が身に付きました。今でも牧場で指示する側に立つことができますが、すごく役立っています。

Q 後輩へメッセージをお願いします

卒業後に思うことは、2年間はほんとうにあっという間だということです。2年間でムダにしないためには、とにかく目標をもつことが大事だと思います。先生に言われることをただするのではなく、自分で考えて工夫すること、やらされている感ではだめだと思います。農大の実習時間をどう使うか、自分自身が成長したいと思うなら、遊ぶときは遊ぶ、実習や授業をしっかりする、そのメリハリをもってほしいと思います。充実した2年間になるよう頑張ってください。



専攻紹介

作物専攻

作物専攻は、16名(1年生8名・2年生8名)の学生が、1haの大規模水田を含む9枚のは場、計3.3haの水田で水稲・小麦・大豆の栽培・販売実習を行っています。

水稲では「コシヒカリ」、「あいちのかおり」を始め、「ミルキークイーン」や無農薬無化学肥料のお米など、様々な品種や方法での栽培技術を学び、大切に育てたお米は直売で販売しています。

農機メーカーとの協力により、自動運転田植え機やPFコンバイン(水分・収量・品質を確認しながら収穫できる)、農業用ヘリやドローンの実演を行っており、大きな面積の栽培に適したスマート農業の技術を学んでいます。

最新の技術に触れながら、食糧生産の根幹を担う作物栽培を学ぶことができるのが作物専攻の魅力です。

4・5月



新学期早々、苗の準備と田植えで忙しくなりますが、遊び心を忘れず楽しく実習に取り組みます!



1ha 水田での直播栽培播種

直進アシスト田植え機!!
最新の機械に触れることができるのも魅力です。



6・7月



田植えが終わって一段落...と思いきや小麦の収穫や大豆の播種が始まります。水稲ではドローンを活用したリモートセンシングも実施しています。



小麦の収穫
(愛知は小麦の単収日本一)



大豆・水稲の防除!!
大変だけど大事な作業です。



8・9・10月



熟期の異なる多彩な品種の収穫が約2か月間続きます。農機メーカーの実演も行いながらおいしい新米を収穫します。今年の出来はどうかかな!?

【水稻栽培品種】
コシヒカリ・ミルクイーン・あさひの夢・愛知135号・あいちのかおり・愛知糯126号・こはるもち・十五夜糯・モミロマン



今年初収穫!



稲 WCS の収穫



11月以降

収穫後は次作に向けた水田の準備を行います。ロータリ・プラウ・レーザーレベラー・ハローといった様々な機械を駆使します!!



もちろん卒論作成・発表会も!!



ロータリ・ハローの様子



その他の活動

校外学習で試験場や農業法人、味噌や酒造メーカーを訪問し水稻・小麦・大豆の栽培や加工について学んでいます。また、県外学習で他県の作物生産について学んでいます (R1 福岡県、R2 石川県)。また、加工演習として、豆腐・味噌・五平餅作りや餅つきを行っています。作った五平餅や切り餅は農大祭でも販売しています。



餅つき!!



五平餅作り。できたておいしい!!



味噌造り



マーケティング研修



校外学習で土壌分析



お米のパッケージ作成



ハウス裏でジャガイモ栽培

専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



9月27日にイチゴの苗を温室に定植しました。3月から育苗ハウスで我が子のように育てた苗は病気の発生もなく、良好な生育です。温室には5品種、約3千株の苗を植えましました。温室ではミストや炭酸ガス等を使った環境制御を学びながら栽培し、12月頃から収穫できる予定です。農大のイチゴは美味しいと毎年評判なので、今年も良いものを作ろうと学生たちも一生懸命に定植をしていました。

イチゴの苗を
定植しました



施設野菜専攻ではトマト、ナス、キュウリの定植を行いました。夏休み期間中に苗の育苗及びほ場の土壌消毒などの準備を行い、8月末から順次定植を進めています。今年は大雨による停電などもあり、一部の接木苗が枯れてしまったりしましたが、なんとか定植までこぎつけました。1年生が派遣実習に行っている間、2年生が責任を持って管理を行い、苗も順調に生育しています！

トマト、ナス、キュウリの
定植が始まりました！



作物専攻では飼料用稲を栽培して稲WCS（ホールクロップサイレイジ）を生産しています。9月6日に稲WCSの収穫実演を行いました。普通のお米とは違って茎や葉も収穫するので、専用の収穫機で収穫してロール状にして、ラッピングマシンでラップしていきます！！
できあがったロールはマシムロのようです♪。普通の収穫とは一味違う貴重な体験ができました！！できあがったロールは酪農専攻にプレゼントして、牛のエサになります。

稲ホールクロップ
サイレイジの
収穫実演！



今年の果物の販売は、例年になく大盛況となりました。特に今年初めての取り組みとしてぶどう3色（黒系、青系、赤系）、ナシ、ミカンをセットして新しい出荷箱や不織布等を使い荷姿を綺麗に仕上げた「バラエティーパック」を販売しました。
このパックを県西三河総合庁舎で事前注文したところ大好評で贈答用にと多くのお客様の注文が入りました。このような農大ならではの取り組みにより学生のモチベーションの向上にもつながりました。

果物の販売が大盛況！
農大独自の
セット売りが好評♪





お盆お彼岸用の キク販売が大盛況

秋のお彼岸の時期、実習販売では、お墓参り用のキクの花束が飛ぶように売れます。大量のキクの栽培管理や収穫は大変ですが、練度の高い2年生を中心に着々と作業を進め、今年も準備は万端。お彼岸の一週間前、9月15日の実習販売には、キクの花束を買い求めるお客さんが殺到し、用意したキクはほぼ完売しました。学生たちは「頑張った甲斐があった」と満足気でした。学生が大切に育てたキク、きつと御先祖様に喜んでいただけたいと思います。



シンビジウムが山で 避暑をしています

毎年恒例のシンビジウムの山あげを行っています。シンビジウムは、花を咲かせるために、真夏を涼しくする必要がありま。農業大学校では6月末から10月初旬まで、標高500mほどの設楽町で管理しています。快適な環境でたくさん花をつけ、12月にはきれいに咲かせてくれることを期待しています。



TMR モリモリ食べます！

9月、涼しくなって食欲の秋となりました。搾乳している牛達もそうです。搾乳牛には、牧草などの粗飼料、トウモロコシや大豆などの濃厚飼料に加え、添加剤などをバランス良く混合したTMR(完全混合飼料)を給与しています。体に反すう胃を持ち夏場が苦手な牛たちも、涼しくなるとよくよく食が戻ってきました。毎日の混合や調整、給与作業は大変ですが、たくさん食べてたくさん生乳を生産してくれることを願って作業しています。



精液希釈実習で 2年生が1年生を指導

9月2日、人工授精に用いる精液を希釈する実習を行いました。採取した精液の活力、生存率を顕微鏡で確認した後、希釈倍率の決め方や、フラスコやピペットを使って希釈する方法を2年生が1年生に丁寧に説明していました。精液性状は最高気温のピークから1ヵ月ほど遅れて悪くなるので、受胎率を高めるために慎重に作業を行っていました。



鶏の解剖等の 実習を行いました

9月3日に中央家畜保健衛生所保健衛生課の職員の方々に講師として、養鶏専攻の1、2年生を対象に、鶏の解剖等の実習を行いました。学生は、まず、家畜保健衛生所職員による採血を見学しました。その後、解剖を行いながら、臓器の場所、状態を確認し、病気になるか臓器がどのようになるかを詳しく教えて頂きました。鶏の疾病への理解が深まりました。



研修紹介

農業技術研修

農業技術研修は、新たに農業経営を始める方や農業生産法人等へ就職する方が、必要な農作物の生産技術、農業経営に関する知識等を習得するための研修です。本研修は、岡崎高等技術専門校の「愛知県雇用セーフティネット対策訓練農業技術研修科」として農業大学校で実施しています。

平成14年に始まり、現在までに19期生が受講し、多くの方が就農や農業法人への雇用就農などしています。

研修プログラムは、毎年5月上旬から翌年1月下旬までの9か月間、本校で露地野菜栽培の実習を主体に就農に役立つ講義などを週5日間行っています。その他、校外学習では先進農家や本研修を通じて就農した先輩農家、農産物直売所、農業試験場などの校外学習も行っています。



実習では、体を動かし、実際に農作業をすることで技術・技能を身につけていきます。そのため、前職がデスクワークだった人には、最初はとてつきついです。夏頃には、皆さんたくましくなります。



朝、9時前に全員でミーティングが行われ、先生から当日の農作業内容を聞いて作業を行います。研修生は約30名で5名ごとに各班に分かれ、2か月ごとに班長が交代しますが、班長はお互いの作業が遅れないように気を付けながら、それぞれが責任をもって作業を行っています。また、研修生一人ひとりが近況報告を含めた自己紹介を行い、その中で農業への思いや目標を話し交流を図っています。

最後に、各研修生は就農に向けて、それぞれの営農計画を発表し巣立っていきます。



研修生の声

○ 村上敦子さん

実家(豊橋市)で父がメロンやキャベツなど野菜の専業農家で、福祉関係の仕事をして、時々手伝っていました。父がケガをしたことをきっかけに、家族から本格的に家に入ってほしいと頼まれました。そんな時、農大のホームページでこの研修を知って、どうせ手伝うなら、自分で考えて自分で計画して農業をしてみたいと思って受講することに決めました。将来の夢は、障がい者を農業で雇用する会社を立ち上げたいと思っています。実は長男が農大の野菜専攻1年生なので、将来は両親や妹、子供と一緒に農業ができればと思っています。研修はいろいろな作物が学べて、とにかく楽しいです。



○ 吉田 学さん

以前は介護関係の仕事でずっとしていました。義兄から幸田町の実家に農地があるので、農業をやってみないかとすすめられたのをきっかけで農業に関心をもつようになりました。ハローワークに行ったときに、このことを話したら、農大の研修を紹介されて、さっそく受講することにしました。幸田町の特産のナスを栽培したいので、研修終了後は、まず、JAの紹介でナス部会の研修をして、地域の人と仲間づくりをしてから農業を始めたいと思っています。10aくらいの規模から開始して、ハウスを建てたいと思っています。研修は、同じ目標をもつ仲間もいて楽しいです。実習販売では、自分たちの作ったものを直接売ること、いろいろな声が聞けて、楽しんでいます。



トピックス

夏休み明け 始業式

9月1日（水）始業式が行われました。

今回は、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言中のため、学生は学生寮の各居室にいて、放送により実施しました。

寮内の放送を通じて堤校長からは、新型コロナウイルス感染症対策の徹底、派遣研修や進路指導などの講話がありました。

学生は、新型コロナウイルス感染症など心配される中で、新学期新たな気持ちをもってスタートします。



寮管理室からの放送で堤校長の講話

「派遣実習」開始！！

本校農学科1年生 80名の「派遣実習」が9月14日（火）から始まりました。

派遣実習の受け入れ農家は県内72戸、県外2戸で、各農業改良普及課の協力を得て、県内各地域で開始式が行われました。

派遣実習の開始式では、受け入れ農家のみなさんにご出席いただき、学生一人一人から研修に向けた抱負を述べました。学生には自らの持てる力を総動員して技術習得に奮闘してきてくれることを期待しています。



開始式(東三河農業改良普及課)

愛知農業次世代リーダー塾始まる

8月30日（月）愛知農業次世代リーダー塾の開講式が行われました。受講者は、経営主の方に加え、経営主の右腕としての活躍が期待される方など13名です。

本年度の講座構成は、昨年度の講座をよりバージョンアップするため、校長講話と先進農家講話を加えました。

午後、早速、第1回講座があり、本校の堤校長より「経営主として必要な資質」として講話があり、受講生は熱心に聴講しました。

これから半年に及ぶ塾が始まります！。



リーダー塾の開講式

農産物利活用研修を開催

9月15日（水）農産物利活用研修が本校で開催され、農業者等28名が参加し、創和マネジメント代表梅村彰氏を講師に「農業のマーケティングと6次産業化」の講演が行われました。

講演の中では、マーケティングを進める手順が説明されるとともに、演習を行い、マーケティングに対する理解を深めました。

受講者からは、「今後の販売に役立てたい」という感想が多く、有意義な研修となりました。



梅村氏の講演

「あいちの就農情報」ができました

愛知県農起業支援ステーションでは、県内各地域及び全国の就農に関する紹介情報や就農に関する制度などの印刷物を集めた「あいちの就農情報」コーナーを農業大学の中央教育棟2階ロビーに設置しました。

農大にお越しの際は、自由に閲覧できますので、ぜひご利用ください。

農起業支援ステーションでは、これからの多くの就農に関する情報の充実に努めていきます。



ぜひ、ご利用ください！

お知らせ

オープンキャンパス 2021 開催

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言のため延期した第5回オープンキャンパスを下記の予定で開催します。本校の学生も参加して交流を深める機会もあるので、農大への入学に関心がある方はぜひご参加ください！

第5回 2021年10月16日（土曜日）

※ 午前9時50分～正午

※ 事前に参加申し込み（電話、メール）が必要です。
詳細は本校ホームページを御覧ください。